

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

コニシ

4956 東証プライム市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 6 月 19 日 (木)

執筆：客員アナリスト

寺島 昇

FISCO Ltd. Analyst **Noboru Terashima**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 2025 年 3 月期の業績概要	01
2. 2026 年 3 月期の業績見通し	01
3. 中期経営計画：2027 年 3 月期に売上高 1,500 億円、営業利益 115 億円を目指す	01
■ 事業概要	02
1. 主要な事業セグメント	02
2. 市場シェアと競合企業	04
3. 特色、強み	04
■ 業績動向	05
1. 2025 年 3 月期の業績概要	05
2. 2025 年 3 月期のセグメント別状況	08
■ 今後の見通し	11
1. 2026 年 3 月期の業績見通し	11
2. 2026 年 3 月期の主な取り組み	13
■ 中期経営計画	14
1. 数値目標	14
2. 各セグメントの重点戦略とサブセグメント目標	16
3. 資金配分計画と主な設備投資	20
■ 株主還元策	21

要約

2025 年 3 月期は全セグメントで増益、売上高・営業利益は過去最高

コニシ <4956> は、「ボンド」ブランドで知られる国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカーである。一般家庭用が有名だが、産業用、住宅・建材用、建築・土木用と幅広い製品を揃えており、主たる市場は住宅・建築・土木関連である。

1. 2025 年 3 月期の業績概要

2025 年 3 月期の業績は、売上高 135,876 百万円（前期比 2.2% 増）、営業利益 10,649 百万円（同 3.5% 増）、経常利益 11,194 百万円（同 3.6% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 8,084 百万円（同 10.1% 増）となった。売上高と営業利益は、「収益認識に関する会計基準」（以下、収益認識基準）適用後で過去最高となった。セグメント別では、「ボンド」は主力の住宅向けが低迷したものの建築用シーリング材や自動車、電子・電機向け接着剤が伸長し、また販売価格の改定も行い、増収増益となった。「化成品」は、原材料価格の低下に伴い売上高は減少したが利益幅を確保したことから増益となった。「工事事業」は、公共事業を中心としたインフラ及びストック市場の補修・改修・補強工事が引き続き好調に推移し、工事の進捗も良好であったため、増収増益となった。設備投資の増加に伴い減価償却費は前期比 263 百万円増加したが、これを吸収して営業増益を達成した。

2. 2026 年 3 月期の業績見通し

2026 年 3 月期の業績予想は、売上高 142,000 百万円（前期比 4.5% 増）、営業利益 10,670 百万円（同 0.2% 増）、経常利益 11,200 百万円（同 0.1% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 8,100 百万円（同 0.2% 増）を見込んでいる。セグメント別では、主力の「ボンド」は、住宅用は弱含みの可能性があるが、市場開拓による販売数量増により増収増益、「化成品」は増収及び経費削減による増益を見込む。「工事事業」は土木関係や補修・改修・補強需要が堅調に推移すると予想されるが、工期の長期化による利益計上時期の遅れによって減益を予想する。設備投資額は、前期比では減少するが依然として高い水準にあり、減価償却費は 3,129 百万円（前期 2,082 百万円）と大幅に増加する見込みだ。そのため、営業利益の伸びは小幅に止まっているが、過去最高を目指す方針を打ち出しており、EBITDA（償却前営業利益）は前期比 8.1% 増を予想している。中期経営計画に沿って事業内容は順調に拡大している。

3. 中期経営計画：2027 年 3 月期に売上高 1,500 億円、営業利益 115 億円を目指す

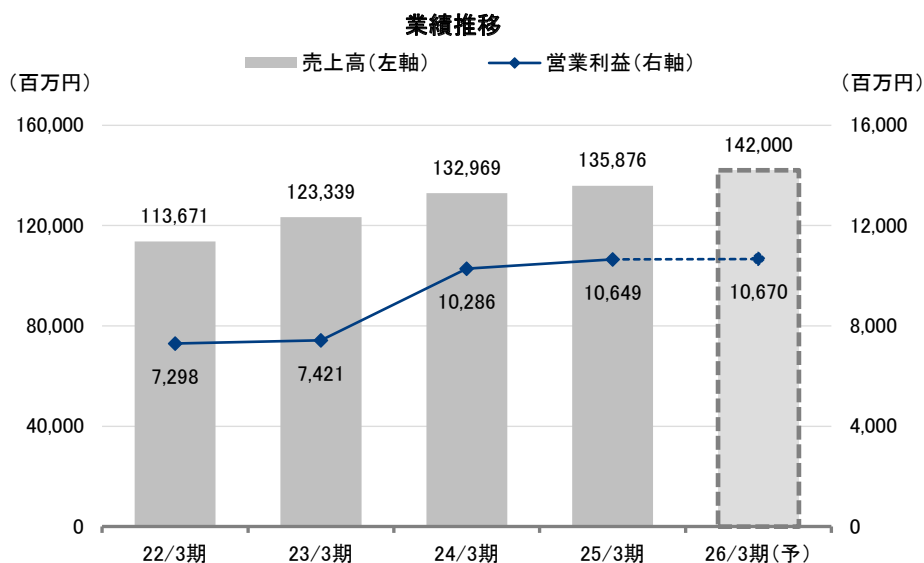
同社は、2024 年 5 月に、2027 年 3 月期を最終年度とする中期経営計画を公表した。最終年度における定量的な目標値として、売上高 1,500 億円、営業利益 115 億円、EBITDA（＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費）145 億円、ROE9.0% を設定した。この間の設備投資額（3 期累計）は、事業拡大・効率化を目的とした成長投資を中心に 150 億円を計画しており、さらに株主還元も 120 億円（自己株式取得 50 億円、配当 70 億円、3 期累計）を行う予定だ。今後、これらの計画・目標がどのように進捗するか、定量的な目標の達成だけでなく、定性的にも同社がどのように成長するかを注目したい。少なくとも終了した 2025 年 3 月期及び進行中の 2026 年 3 月期の内容は、この計画に沿って順調に進捗している。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

要約

Key Points

- ・国内最大級の接着剤・シーリング材メーカー。販売先は産業用、住宅・建材用、建築・土木用と幅広い
- ・2025 年 3 月期は前期比 3.5% の営業増益で過去最高を更新、2026 年 3 月期は 0.2% 増予想だが、EBITDA は 8.1% 増の見込み
- ・中期経営計画を発表済み：2027 年 3 月期売上高 1,500 億円、営業利益 115 億円を計画



注：2022 年 3 月期首より収益認識基準等を適用しており、同期以降は収益認識基準適用の数値を記載。
出所：決算短信よりフィスコ作成

事業概要

国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカー。
幅広い製品群を揃える

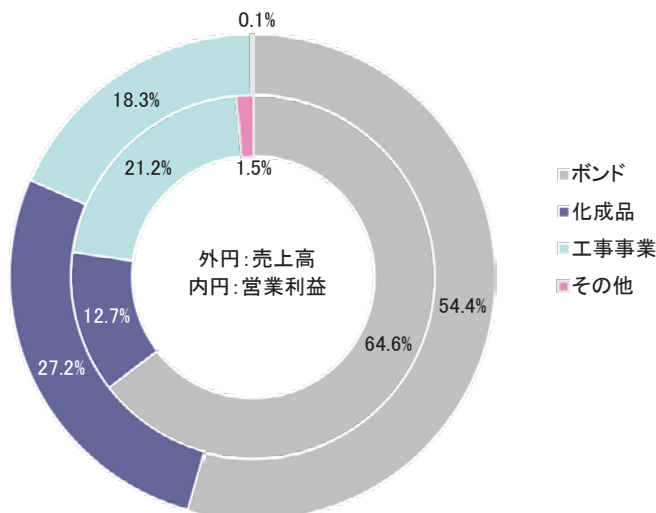
1. 主要な事業セグメント

同社は、「bond」「化成品」「工事業」の 3 セグメント及びその他で事業を展開している。2025 年 3 月期の売上高比率は、bond 54.4%、化成品 27.2%、工事業 18.3%、その他 0.1% となっている。営業利益（調整前）の比率では bond が 64.6%、化成品が 12.7%、工事業が 21.2%、その他 1.5% となっている。化成品の利益の比率が低いのは、同事業が仕入販売を行う商社事業であるのに対して、bond 及び工事業は自社で製造・販売・エンジニアリング等を行っているためである。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

事業概要

売上高と営業利益の比率(2025年3月期)



注：売上高は外部顧客への売上高。営業利益は調整額を含まない。

出所：決算短信よりフィスコ作成

(1) ボンド

ボンドでは、主に一般家庭用、住宅・建材用、産業資材用の各種接着剤、シーリング材及びワックス・両面テープ等の製造・販売を国内外で行っている。アイテム数は「ボンド」のブランドが付く商品だけで3,000以上のアイテムに上り、業界での品揃えは国内で群を抜いている。また、連結子会社のサンライズ（株）では主に戸建て用の建築用シーリング材や自動車用シール材・接着剤を製造・販売している。もう1つの連結子会社ウォールボンド工業（株）は壁紙用接着剤の製造・販売を行っている。

(2) 化成品

化成品では石油化学製品、合成樹脂、工業用薬品全般、電子機能性材料の仕入販売を行っており、主たる業務は商社的な事業である。最近では自社製品の開発推進や取り扱い商材の拡大などを行い、商社の持つルートの強みを生かした施策に取り組んでいる。

(3) 工事業

子会社のボンドエンジニアリング（株）、コニシ工営（株）、近畿鉄筋コンクリート（株）、角丸建設（株）、中信建設（株）で手掛ける工事請負事業である。工事請負事業は、主に官公庁、鉄道会社、道路公団等から発注された道路、鉄道、トンネル、橋梁などの補修・改修・補強工事を請負うものである。同社の場合は接着剤メーカーとしてのノウハウや経験を生かした補修・改修・補強工事を専門で行っているのが特色だ。

(4) その他

その他は不動産賃貸業である。以前は売上高・利益ともに微少であったが、本社ビルの取得に伴い収入・利益とも増加した。2026年3月期からは、事業セグメントから外している。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

事業概要

2. 市場シェアと競合企業

主力製品である合成接着剤においては生産量ベースでの市場シェアは 10% 強の水準と推計され、ここ数年はわずかながら上昇トレンドにある。また、金額ベースのシェアにおいては 12 ~ 13% (建設用シーリング材を除く) と、数量・金額ともに国内市場でトップと推定される。

主な競合企業は、一般家庭用ではセメダイン (株)、住関連用では主にアイカ工業 <4206>、(株) オーシカなどである。建設シーリング材ではサンスター技研 (株)、シーカ・ハマタイト (株) などと競合する。建設・土木用では、接着剤ではショーボンドマテリアル (株) (旧 ショーボンド化学 (株)) との競合となるが、実際の工事現場では子会社のボンドエンジニアリングがショーボンド建設 (株) と競合する格好となっている。また、工場生産用ではレゾナック・ホールディングス <4004>、ヘンケルジャパン (株) やオーシカ等が競合大手である。また、エレクトロニクス製品の生産用ではセメダインや (株) スリーボンドと競合するが、両面テープまで広げると日東電工 <6988> やスリーエムジャパン (株) が競合企業として挙げられる。

3. 特色、強み

同社の特色、強みを要約すると以下ようになる。

(1) ブランド力

同社の最大の強みは「ボンド」の持つ圧倒的なブランド力である。一般家庭向けの「ボンド木工用」から建築用、産業用の「ボンド」まで、老若男女を問わず誰もが「ボンド」の名を知っている。

(2) 製品ラインナップと販売網

製品ラインナップが豊富なことも同社の特色である。幅広い製品ラインナップを揃えているため、需要先も土木、建設、住宅、自動車、電機など多岐にわたっている。そのため、業績は特定の業種や製品に左右されにくく、企業としての収益基盤は安定している。これも同社の強みである。

(3) 接着剤専業としての強み

前述のように、セメダインを除いた多くの競合企業は接着剤の専門メーカーではなく、化学品メーカーが多い。言い換えれば、競合企業にとって接着剤は本業ではなく 1 つの事業でしかない。これに比べて同社は接着剤専業メーカーであるため、顧客からの信頼は厚い。これも同社の特色であり、強みと言えるだろう。

業績動向

2025 年 3 月期の営業利益は前期比 3.5% 増で過去最高更新。 全セグメントで増益

1. 2025 年 3 月期の業績概要

(1) 損益状況

2025 年 3 月期の業績は、売上高 135,876 百万円（前期比 2.2% 増）、営業利益 10,649 百万円（同 3.5% 増）、経常利益 11,194 百万円（同 3.6% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 8,084 百万円（同 10.1% 増）となった。売上高と営業利益は、収益認識基準適用後で過去最高となった。

売上総利益率は 20.3%（前期は 20.0%）となり前期比で 0.3 ポイント改善した。これは主に製品価格改定効果に加えて、化成品及び工事事業での粗利率改善による。その一方で、販管費の 3.5% 増は想定内で、増収と粗利率改善により営業利益は過去最高となった。

セグメント別では、「ボンド」は主力の住宅向けが低迷したものの、建築用シーリング材や自動車、電子・電機向け接着剤が伸長し、また販売価格の改定を行い増収増益となった。「化成品」は、原材料価格の低下に伴い売上高は減少したが利益幅を確保し利益率が改善したことから増益となった。「工事事業」は、公共事業を中心としたインフラ及びストック市場の補修・改修・補強工事が引き続き好調に推移し、工事の進捗も良好であったため、増収増益となった。

設備投資額は栃木工場の水性製造所新設を中心に 7,761 百万円（前期は 6,984 百万円）と高水準であった。これに伴い減価償却費は 2,082 百万円（同 1,819 百万円）となった。

営業利益の増減要因を見ると、プラス要因としては「ボンド」における販売数量増による利益増が 813 百万円、販売価格の改善による利益増が 1,189 百万円、「化成品」及び「工事事業」の粗利益率改善による利益増加が 292 百万円（化成品 98 百万円、工事事業 194 百万円）となった。マイナス要因（減益要因）としては、「ボンド」の原材料コストの増加 998 百万円、同製造経費の増加が 343 百万円、全体の販管費の増加 573 百万円などがあり、結果として営業利益は前期比 362 百万円増となった。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

業績動向

2025 年 3 月期の業績

(単位：百万円)

	24/3 期		25/3 期		前期比
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	132,969	100.0%	135,876	100.0%	2.2%
売上総利益	26,657	20.0%	27,592	20.3%	3.5%
販管費	16,370	12.3%	16,943	12.5%	3.5%
営業利益	10,286	7.7%	10,649	7.8%	3.5%
経常利益	10,806	8.1%	11,194	8.2%	3.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,344	5.5%	8,084	5.9%	10.1%

出所：決算短信よりフィスコ作成

中計の方針に沿って政策保有株の縮減を進め、 自己資本比率は 63.1% へ上昇

(2) 財務状況

2025 年 3 月期末の財務状況は、流動資産は前期末比 6,856 百万円減少し 85,769 百万円となった。主に現金及び預金の減少 5,532 百万円、受取手形及び売掛金（電子記録債権含む）の減少 2,800 百万円、契約資産の増加 1,915 百万円、棚卸資産の減少 791 百万円などによる。固定資産は同 2,807 百万円増の 51,032 百万円となったが、主な要因は設備投資による有形固定資産の増加 3,039 百万円、無形固定資産の増加 1,128 百万円、投資その他の資産の減少 1,359 百万円などであった。投資その他資産の減少は、主に中期経営計画の方針に沿った政策保有株式の売却による。その結果、資産合計は同 4,049 百万円減の 136,801 百万円となった。

負債合計は前期末比 6,037 百万円減の 50,128 百万円となった。主に、支払手形及び買掛金（電子記録債務含む）の減少 5,913 百万円、1 年内返済予定の長期借入金を含む短期借入金等の減少 3 百万円、長期預り保証金の増加 167 百万円、繰延税金負債の減少 361 百万円等による。純資産合計は、同 1,987 百万円増の 86,672 百万円となったが、主に当期利益の計上による利益剰余金の増加 5,694 百万円、消却による自己株式の減少 96 百万円、その他有価証券評価差額金の減少 991 百万円などによる。この結果、2025 年 3 月期末の自己資本比率は 63.1%（前期末 56.6%）へ上昇した。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

業績動向

貸借対照表

(単位：百万円)

	24/3 期末	25/3 期末	前期末比
現金及び預金	26,651	21,118	-5,532
受取手形及び売掛金（電子記録債権含む）	45,446	42,646	-2,800
契約資産	7,902	9,817	1,915
棚卸資産	11,233	10,442	-791
流動資産計	92,625	85,769	-6,856
有形固定資産	29,715	32,754	3,039
無形固定資産	1,978	3,106	1,128
投資その他資産	16,530	15,171	-1,359
固定資産計	48,224	51,032	2,807
資産合計	140,850	136,801	-4,049
支払手形及び買掛金（電子記録債務含む）	41,290	35,377	-5,913
短期借入金等	92	89	-3
流動負債計	49,144	43,266	-5,878
長期預り保証金	3,130	3,297	167
繰延税金負債	2,909	2,548	-361
固定負債計	7,020	6,862	-158
負債合計	56,165	50,128	-6,037
純資産合計	84,685	86,672	1,987

出所：決算短信よりフィスコ作成

(3) キャッシュ・フローの状況

2025 年 3 月期の営業活動によるキャッシュ・フローは 7,174 百万円の収入となった。主な収入は税金等調整前当期純利益の計上 11,503 百万円、減価償却費 2,082 百万円、売上債権及び契約資産の減少 981 百万円、棚卸資産の減少 871 百万円などで、主な支出は、仕入債務の減少 5,715 百万円であった。投資活動によるキャッシュ・フローは 7,310 百万円の支出となったが、主に有形固定資産の取得による支出 6,956 百万円など。財務活動によるキャッシュ・フローは 5,621 百万円の支出となったが、主な支出は自己株式の取得 3,065 百万円、配当金の支払い 2,388 百万円による。

以上から 2025 年 3 月期の現金及び現金同等物は前期末比 5,619 百万円減少し、期末残高は 20,008 百万円となった。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

業績動向

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	24/3 期	25/3 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,139	7,174
税金等調整前当期純利益	11,041	11,503
減価償却費	1,819	2,082
投資有価証券売却損益 (- は益)	-285	-397
売上債権及び契約資産の増減額 (- は増加)	-3,838	981
棚卸資産の増減額 (- は増加)	144	871
仕入債務の増減額 (- は減少)	3,495	-5,715
投資活動によるキャッシュ・フロー	-5,225	-7,310
有形固定資産の取得による支出	-5,101	-6,956
財務活動によるキャッシュ・フロー	-8,603	-5,621
借入金等の純増減額	-79	-66
自己株式の取得による支出	-6,758	-3,065
配当金の支払額	-1,676	-2,388
現金及び現金同等物増減額 (- は減少)	-5,641	-5,619
現金及び現金同等物期末残高	25,627	20,008

出所：決算短信よりフィスコ作成

ボンドは主力の住宅向け販売数量が減少も、 中期経営計画に沿った事業戦略による他の製品増で増収増益

2. 2025 年 3 月期のセグメント別状況

(1) ボンド

セグメント売上高は 73,898 百万円（前期比 3.2% 増）、営業利益は 6,903 百万円（同 4.5% 増）となった。主力の住宅向けが不振で数量ベースでは伸び悩んだが、中期経営計画で掲げている事業戦略が順調に進捗していることで他の用途向けが健闘し、増収増益となった。各サブセグメントの状況は以下のとおりである。

a) 一般家庭関連：売上高 6,799 百万円（前期比 3.5% 増）

ホームセンター、コンビニエンスストア向けが堅調に推移した。

b) 住宅関連：売上高 22,451 百万円（同 2.0% 増）

住宅着工数の減少により内装施工用は低迷したが、建築資材用やタイル施工用接着剤が好調に推移し、前期比で増収となった。

c) 産業資材関連：売上高 9,185 百万円（同 6.7% 増）

産業資材用で取り扱う主な製品は、紙管・製袋用途向け水性エマルジョン形接着剤、パネル用途向けウレタン系接着剤、自動車関連産業向け接着剤や封止材及び離型剤、産業用ホットメルト系接着剤など。自動車・電子電機用が新規獲得も含めて好調であったことに加えて、紙加工用接着剤も好調に推移した。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

業績動向

d) テープ：売上高 3,643 百万円（同 2.4% 増）

産業用が堅調に推移した。

e) 建設関連：売上高 14,980 百万円（同 4.2% 増）

建築用シーリング材が順調に推移した。

f) 土木関連：売上高 2,569 百万円（同 3.6% 増）

土木補修用接着剤が順調に推移した。

g) サンライズ（連結子会社）：売上高 10,371 百万円（同 7.7% 増）

住宅関連用の高耐候シーリング材のリフォーム市場における販売が好調に推移した。

h) ウォールボンド工業（連結子会社）：売上高 3,123 百万円（同 0.5% 増）

主要製品は壁紙用接着剤であることから、100% が住宅関連である。遅れていた壁装用接着剤の値上げ効果で増収となった。

ボンドセグメントの業界及び子会社別売上高推移

（単位：百万円）

	24/3 期	25/3 期	前期比
一般家庭用	6,569	6,799	3.5%
住宅関連	22,007	22,451	2.0%
産業資材関連	8,611	9,185	6.7%
テープ	3,556	3,643	2.4%
建設関連	14,375	14,980	4.2%
土木関連	2,480	2,569	3.6%
サンライズ	9,628	10,371	7.7%
ウォールボンド工業	3,108	3,123	0.5%
合計	71,627	73,898	3.2%

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

化成品は仕入価格の低下で減収だが、利益率は改善し増益

(2) 化成品

化成品の売上高は 36,929 百万円（前期比 6.0% 減）、営業利益は 1,354 百万円（同 2.9% 増）となった。仕入価格（主にレアメタル等）の下落に伴い販売価格も下がったことから減収となったが、一定の利益を確保したことから増益となった。

注：主な業界別状況は以下のとおりであるが、化成品は収益認識基準の影響を最も大きく受けるため、業界別状況については収益認識基準適用前での開示となっている。収益認識基準適用前のセグメント売上高は、64,303 百万円（同 4.1% 減）であった。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

業績動向

a) 自動車：売上高 25,387 百万円（前期比 8.3% 減）

仕入価格に連動する販売価格の下落および認証不正問題による減産の影響を受けて低調に推移した。

b) 化学工業：売上高 7,450 百万円（同 6.3% 減）

中国景気減退の影響を受け、樹脂原料が低調に推移した。

c) 電子・電機：売上高 7,241 百万円（同 5.5% 減）

スマートフォン向け商材は堅調であったが、他商材が順調に減少してセグメントとしては低調に推移した。

d) 塗料：売上高 3,987 百万円（同 1.0% 減）

塗料の需要減もあり、ほぼ前期並みに止まった。

e) 住設・資材関連：売上高 3,537 百万円（同 2.4% 増）

前期までの「その他」を改称したものだが、資材関連の需要に支えられて増収を確保した。

f) 丸安産業（株）（連結子会社）：売上高 15,202 百万円（同 1.6% 増）

コンデンサ向け材料が堅調に推移した。

化成品セグメントの業界及び子会社別売上高推移

（単位：百万円）

	24/3 期	25/3 期	前期比
自動車	27,686	25,387	-8.3%
化学工業	7,948	7,450	-6.3%
電子・電機	7,662	7,241	-5.5%
塗料	4,026	3,987	-1.0%
住設・生活資材関連	3,452	3,537	2.4%
丸安産業	14,955	15,202	1.6%
合計	67,033	64,303	-4.1%

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

工事業は子会社各社が好調に推移して増益

(3) 工事業

「工事業」の売上高は 24,861 百万円（前期比 13.7% 増）、営業利益は 2,269 百万円（同 1.1% 増）となった。
各子会社が堅調に推移した。

a) ボンドエンジニアリング（連結子会社）：売上高 14,317 百万円（前期比 12.5% 増）

前期に続いて橋梁などの社会インフラの補修・改修・補強工事が好調に推移した。

b) コニシ工営（連結子会社）：売上 1,858 百万円（同 8.2% 増）

公共工事、民間工事ともに順調に推移した。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

業績動向

c) 近畿鉄筋コンクリート（連結子会社）：売上高 2,260 百万円（同 46.0% 増）

大型物件が完工し、好調に推移した。物件の完工時期によって売上高は大きく変動する傾向がある。

d) 角丸建設（連結子会社）：売上高 5,339 百万円（同 12.5% 増）

前期は工事の進捗が遅れたが、今期は受注工事の進捗が順調に推移した。

e) 中信建設（連結子会社）：売上高 1,733 百万円（同 0.9% 増）

長野県にある土木建築工事会社。受注工事が順調に完工したものの、前年並みで推移した。

工事事業セグメントの子会社別売上高推移

（単位：百万円）

	24/3 期	25/3 期	前期比
ボンドエンジニアリング	12,718	14,317	12.5%
コニシエ営	1,717	1,858	8.2%
近畿鉄筋コンクリート	1,547	2,260	46.0%
角丸建設	4,745	5,339	12.5%
中信建設	1,717	1,733	0.9%
合計	21,857	24,861	13.7%

出所：決算説明資料よりフィスコ作成

(4) その他

不動産賃貸業が中心の事業で、売上高 186 百万円（同 4.3% 増）、営業利益 164 百万円（同 31.5% 増）となった。

今後の見通し

2026 年 3 月期は前期比 4.5% 増収、EBITDA8.1% 増

1. 2026 年 3 月期の業績見通し

(1) 損益見通し

2026 年 3 月期の業績は、売上高 142,000 百万円（前期比 4.5% 増）、営業利益 10,670 百万円（同 0.2% 増）、経常利益 11,200 百万円（同 0.1% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 8,100 百万円（同 0.2% 増）を予想している。営業利益は微増の予想だが、下記のように減価償却費が大幅増となる見込みであるため、EBITDA（償却前営業利益）は前期比 8.1% 増の予想であり、本業は順調に伸びる見込みだ。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

今後の見通し

セグメント別では、主力の「ボンド」では、住宅用は弱含みの可能性があるが、市場開拓による販売数量増により売上高は 76,900 百万円(前期比 4.1% 増)、営業利益 6,990 百万円(同 1.2% 増)を予想している。「化成品」の売上高は 40,000 百万円(同 8.3% 増)の見込みで、経費削減により営業利益は 1,540 百万円(同 13.7% 増)を予想している。「工事業」では土木関係や補修・改修・補強需要が堅調に推移するため増収予想だが、工期の長期化による利益計上の遅れによって減益を予想している。減益予想だが、業況が悪化するためではなく、期を越える大型工事が増えていることから利益の回収がずれ込むためだ。

2026 年 3 月期の業績見通し

(単位：百万円)

	25/3 期		26/3 期		
	実績	売上比	予想	売上比	前期比
売上高	135,876	100.0%	142,000	100.0%	4.5%
ボンド事業	73,898	54.4%	76,900	54.2%	4.1%
化成品事業	36,929	27.2%	40,000	28.2%	8.3%
工事業	24,861	18.3%	25,100	17.7%	1.0%
その他	186	0.1%	-	-	-
営業利益	10,649	7.8%	10,670	7.5%	0.2%
ボンド事業	6,903	5.1%	6,990	4.9%	1.2%
化成品事業	1,354	1.0%	1,540	1.1%	13.7%
工事業	2,269	1.7%	2,140	1.5%	-5.7%
その他	164	0.1%	-	-	-
(調整額)	-42	0.0%	-	-	-
経常利益	11,194	8.2%	11,200	7.9%	0.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,084	5.9%	8,100	5.7%	0.2%

出所：決算短信よりフィスコ作成

(2) 設備投資額と減価償却費の見通し

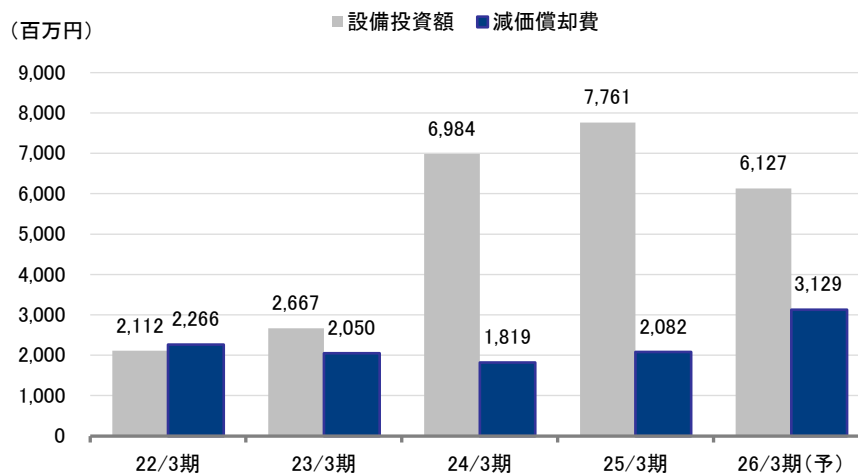
設備投資額は 6,127 百万円(前期は 7,761 百万円)を計画している。主な投資は、コニシの新基幹システム関連、生産設備更新関連、サンライズの生産設備導入関連、ウォールボンド工業の物流倉庫関連などである。

一方で、減価償却費は 3,129 百万円(前期比 1,047 百万円増)と大幅増が予想されており、これが営業利益の伸びを大きく抑える見込みだ。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

今後の見通し

設備投資額と減価償却費の推移



出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

中期経営計画に沿って重点施策を推進中

2. 2026 年 3 月期の主な取り組み

進行中の 2026 年 3 月期は以下のような重点施策を推進する予定だが、これらの取り組みはいずれも中期経営計画に沿った内容であり、中計達成に向けて順調に進捗していると言える。

(1) ボンド事業（メーカー部門）

a) 産業用途の開拓

- ・注力分野である電子電機・自動車向け弾性接着剤、封止材等を開発し、新規開拓を推進する。
- ・紙工用水性接着剤のシェア拡大を目指す。

b) 社会インフラ・建築ストック長寿命化への取り組み推進

- ・建築用シーリング材のシェア拡大を進める。
- ・ビルやマンションの外壁改修工法、防水工法の拡販を目指す。
- ・土木分野におけるはく落防止工法、繊維補強工法の拡販を目指す。

c) 住宅関連用の更なる拡販

- ・集成材やラミネート向けなどの建築資材用接着剤の新規開拓を進める。
- ・サンライズの住宅用高耐候シーリング材をリフォーム業界向けに深耕開拓を図る。
- ・ウォールボンド工業はコニシの販路を活用し、壁装用接着剤のシェア拡大を図る。

(2) 化成品事業（商社部門）

a) 注力分野への販売強化

- ・自動車用モーター、バッテリー等の車載部品関連商材の新規開拓を推進する。
- ・電子電機向け放熱材の拡販に注力する。
- ・自動車、電子電機業界向け高耐熱、放熱用樹脂、封止材の拡販に努める。

(3) 工事業（工事部門）

a) 土木リペア市場における受注活動の強化

- ・橋梁やトンネル等の社会インフラ老朽化工事に注力した受注活動を推進する。

b) 人材獲得・育成の推進

- ・今後拡大が見込まれる社会インフラの補修・補強・改修工事に対応するため、採用活動の強化および資格取得者の育成に努める。

■ 中期経営計画

2027 年 3 月期に売上高 1,500 億円、営業利益 115 億円を目指す

同社は、2024 年 5 月に 2027 年 3 月期を最終年度とする「中計経営計画 2027」を発表した。以下がその概要であるが、記述のように初年度（2025 年 3 月期）実績及び 2 年目（2026 年 3 月期）計画を見る限り、この計画は順調に進捗していると言えそうだ。

1. 数値目標

(1) 主要 KPI

主要な KPI の目標としては、2027 年 3 月期に売上高 1,500 億円（2024 年 3 月期実績比 12.8% 増）、営業利益 115 億円（同 12.0% 増）、EBITDA（営業利益＋減価償却費＋のれん償却費）145 億円（同 17.0% 増）、ROE9.0%、設備投資額（3 年間の累計額）150 億円、株主還元（配当総額＋自己株式取得額）120 億円を目指す。注目すべきは設備投資と株主還元についても目標値を設定したことだ。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

中期経営計画

中計目標数値

	23/3 期	24/3 期		(単位: 億円)
			27/3 期	(24/3 期比)
売上高	1,233	1,329	1,500	12.8%
営業利益	74	102	115	12.0%
EBITDA ※ 1	96	123	145	17.0%
設備投資 ※ 2	85	117	150	(3 年累計)
株主還元 ※ 2	62	126	120	(3 年累計)

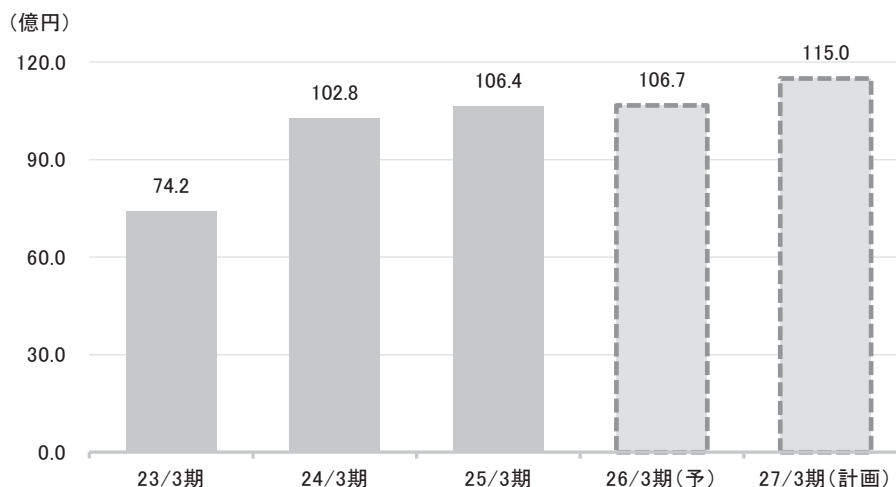
※ 1 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

※ 2 直近 3 期累計

出所: 決算説明会資料よりフィスコ作成

今後 3 期だけを見ると、この間の売上高及び営業利益の平均成長率は低く見えるが、これは終了した 2024 年 3 月期の成長率が特別に高かったためで、もともとの計画の初年度である 2023 年 3 月期との比較では着実な成長が続いていると言える。ROE は数値目標に基づいており、営業外収益等の要因は考慮していない目標値となっているため、今後の動向を確認する必要がある。

営業利益の推移



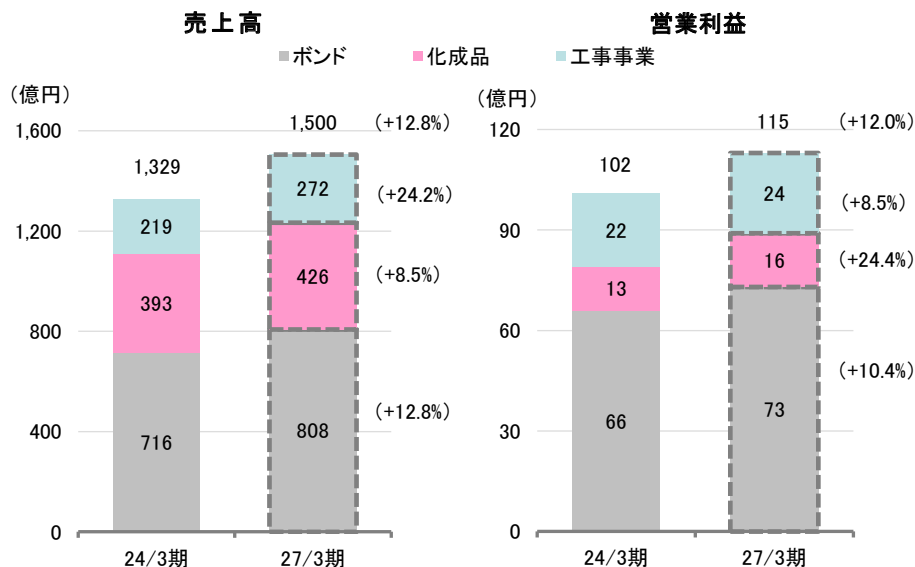
出所: 決算説明会資料よりフィスコ作成

(2) セグメント別目標値

各セグメント別の目標値 (2027 年 3 月期の売上高、営業利益) は、bond では売上高 808 億円 (2024 年 3 月期比 12.8% 増)、営業利益 73 億円 (同 10.4% 増)、化成品では売上高 426 億円 (同 8.5% 増)、営業利益 16 億円 (同 24.4% 増)、工事業では売上高 272 億円 (同 24.2% 増)、営業利益 24 億円 (同 8.5% 増) となっている。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

中期経営計画



出所：決算説明会資料、中期経営計画資料よりフィスコ作成

2. 各セグメントの重点戦略とサブセグメント目標

重点戦略として「ボンド：非住宅分野の新規開拓」「化成品：自動車・電子電機業界への販売強化」「工事業：社会インフラの老朽化対策工事に注力」を掲げている。

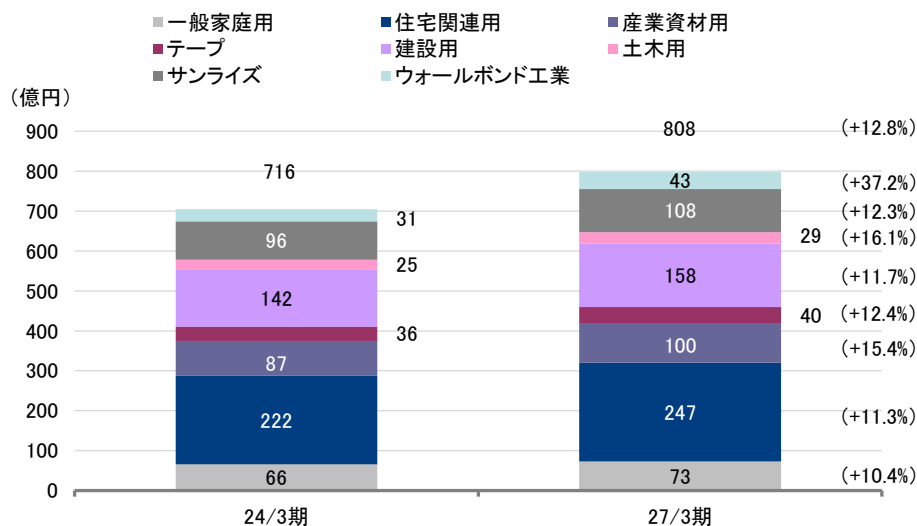
(1) ボンド（メーカー部門）

各サブセグメントの売上高は、一般家庭用 73 億円（2024 年 3 月期比 10.4% 増）、住宅関連用 247 億円（同 11.3% 増）、産業資材用 100 億円（同 15.4% 増）、テープ 40 億円（同 12.4% 増）、建設用 158 億円（同 11.7% 増）、土木用 29 億円（同 16.1% 増）、サンライズ 108 億円（同 12.3% 増）、ウォールボンド工業 43 億円（同 37.2% 増）を計画している。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

中期経営計画

ボンド：用途別売上高



出所：決算説明会資料、中期経営計画資料よりフィスコ作成

計画遂行のために以下の施策を実行していく。

1) 産業用途の新規開拓推進 ～非住宅分野の強化～

電子電機及び自動車向けの封止材や接着剤を開発し、新規開拓とシェアアップを図る。事業領域の拡大を進め、売上高 13 億円増（2027 年 3 月期まで）を目指す。

2) 社会インフラ・建築ストック長寿命化への取り組み推進

リペア市場の深耕開拓、土木建築補修用の新製品・新工法開発を推進する。また建築用シーリング材のシェアアップ（シェア約 40% → 45%）を目指す。土木用で売上高 4 億円増（2027 年 3 月期まで）、建築用シーリング材で売上高 11 億円増（同）、建築補修材等で売上高 5 億円増（同）を目標とする。

3) 既存主力業界である住宅関連用のさらなる拡販

集成材用、タイル用接着剤などの業界内シェアアップを図る。サンライズは住宅用シーリング材の拡販を図る。ウォールボンド工業は壁装用接着剤の拡販を図る。

(2) 化成品（商社部門）

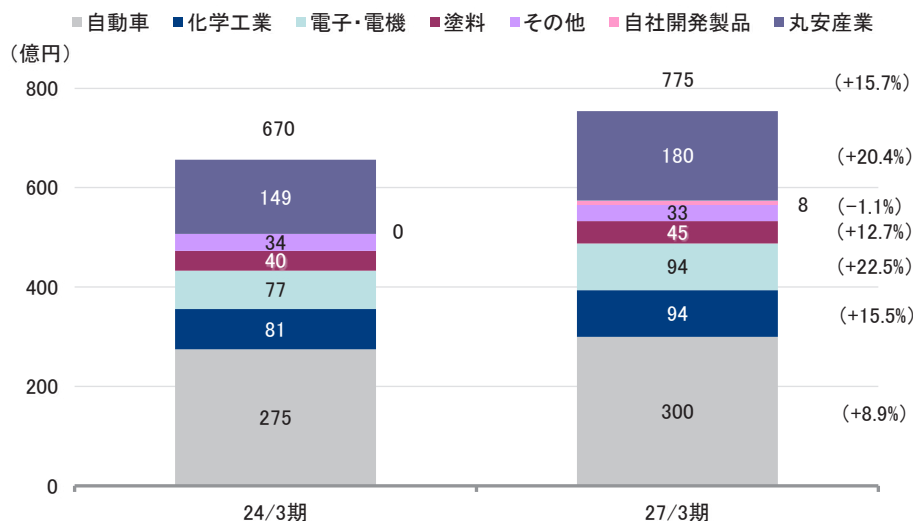
各サブセグメントの売上高（2027 年 3 月期）は、自動車 300 億円（2024 年 3 月期比 8.9% 増）、化学工業 94 億円（同 15.5% 増）、電子・電機 94 億円（同 22.5% 増）、塗料 45 億円（同 12.7% 増）、その他 33 億円（同 1.1% 減）、自社開発製品 8 億円（2024 年 3 月期はほぼゼロ）、丸安産業 180 億円（同 20.4% 増）を計画している※。

※ これらの数値は収益認識基準適用前の数値。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

中期経営計画

化成品：業界別売上高



注：収益認識基準適用前の数値。

出所：決算説明会資料、中期経営計画資料よりフィスコ作成

計画遂行のために以下の施策を実行していく。

1) 注力分野への販売強化

自動車・電子電機業界での新規・深耕開拓を推進する。具体的には、a) HV・EV（電気自動車）向け商品や放熱材などの新商材の拡販、b) 半導体関連商材の販売強化、c) 丸安産業：コンデンサ用商材の拡販などを推進する。

2) メーカー機能を併せ持つ商社へ

自社開発製品の上市・拡販を図る。具体的には、a) 自動車・電子電機業界向け高耐熱・放熱タイプの樹脂材料の開発、b) 塗料・コーティング材の開発などを推進する。その結果、自社開発の推進と市場導入により、自社開発製品の売上高 8 億円増（2027 年 3 月期まで）を目指す。

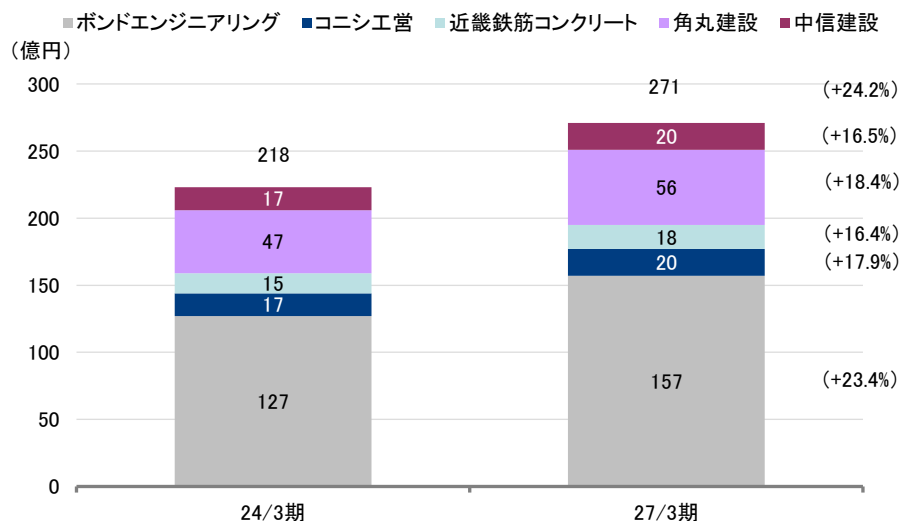
(3) 工事業（工事部門）

各サブセグメントの売上高（2027 年 3 月期）は、ボンドエンジニアリング 157 億円（2024 年 3 月期比 23.4% 増）、コニシ工営 20 億円（同 17.9% 増）、近畿鉄筋コンクリート 18 億円（同 16.4% 増）、角丸建設 56 億円（同 18.4% 増）、中信建設 20 億円（同 16.5% 増）を計画している。

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

中期経営計画

工事業業：業界別売上高



出所：決算説明会資料、中期経営計画資料よりフィスコ作成

計画遂行のために以下の施策を実行していく。

1) リペア市場（土木補修分野）における事業拡大

建設後 50 年以上を経過する橋梁が、2030 年には約 55% となる見込みであるため、ボンドエンジニアリングを中心に、社会インフラの老朽化対策工事に注力し、さらなる事業の拡大を図る。

2) 事業規模拡大に向けた体制の構築

有資格者（土木施工管理技士等）の採用強化に注力する。社内育成による資格取得の推奨を進める。

3) M&A による事業拡大

社会インフラの補修・改修・補強工事業のなかで、特にリペア需要が見込まれる「橋梁分野」で相乗効果が発揮できる M&A を推進する。

【工事業業グループ M&A 実績】

2013 年：近畿鉄筋コンクリート（橋梁などの上部床版工事業）

2017 年：角丸建設（土木建築工事業）

2020 年：（株）和泉（2023 年、角丸建設に吸収合併）

2020 年：山昇建設（株）（2022 年、ボンドエンジニアリングに吸収合併）

2023 年：中信建設（土木建築工事業）

3. 資金配分計画と主な設備投資

(1) 資金配分計画

今回の中期経営計画では、成長に必要な設備投資に加え、安定的な配当と自己株式取得により株主還元を強化する。資金配分としては、設備投資（3 年累計）に 150 億円、株主還元（総額 120 億円（うち自己株式取得に 50 億円、配当に 70 億円＝配当性向 30%））を使う予定だ。

一方で、資金の源泉としては、すべてを中期経営計画期間内の営業キャッシュ・フローで賄う計画だ。

(2) 設備投資

生産能力の増強及び効率化・合理化、DX の推進のために、過去最大規模（3 年累計 150 億円）の設備投資を行う予定であり、主な投資案件は、現時点で以下のとおりである。

1) 生産・物流体制の強化（105 億円）

a) 「コニシ栃木工場」新製造所・物流倉庫の建設（2025 年 4 月稼働）

- ・水性接着剤の生産 2 拠点化（現在は滋賀工場のみ）による BCP 対策と東日本エリアへの配送効率向上
- ・生産工程・充填・入出庫作業の自動化（省人化によるコスト削減）

b) 「コニシ滋賀工場」生産合理化の推進

- ・生産工程・設備の見直しを行い、生産効率向上を図る（生産量増、コスト削減）

c) 「サンライズ」シーリング材製造設備の増設・更新（2026 年 4 月までに随時稼働予定）

- ・生産設備導入及び既存設備更新（生産効率向上、省人化によるコスト削減）

d) 「ウォールボンド工業」新物流倉庫の建設（2025 年 7 月稼働予定）

- ・入庫作業の自動化（省人化によるコスト削減）

2) DX の推進（15 億円）

a) 新基幹システムの導入

- ・各種課題及びビジネス環境等を考慮した効率的・合理的なシステムの導入

コニシ | 2025 年 6 月 19 日 (木)
4956 東証プライム市場 | <https://www.bond.co.jp/ir/>

株主還元策

配当は中計期間中に 70 億円（配当性向 30% 以上）を予定。 自社株取得にも前向き

配当については、2017 年 3 月期より「毎期の業績等を勘案しながら利益を還元するとともに、継続的な配当を実施する」ことを基本方針としてきた。この方針に基づいて、終了した 2025 年 3 月期は当初は年間配当を 33.0 円の予定であったが、会社設立 100 周年を記念して 5 円増配し、年間配当を 38 円（配当性向 31.4% ※）とした。進行中の 2026 年 3 月期も年間配当 38.0 円（予想配当性向 31.1%）を予定している。

※ 2024 年 1 月 1 日付の株式分割 1：2 の調整後の数値。

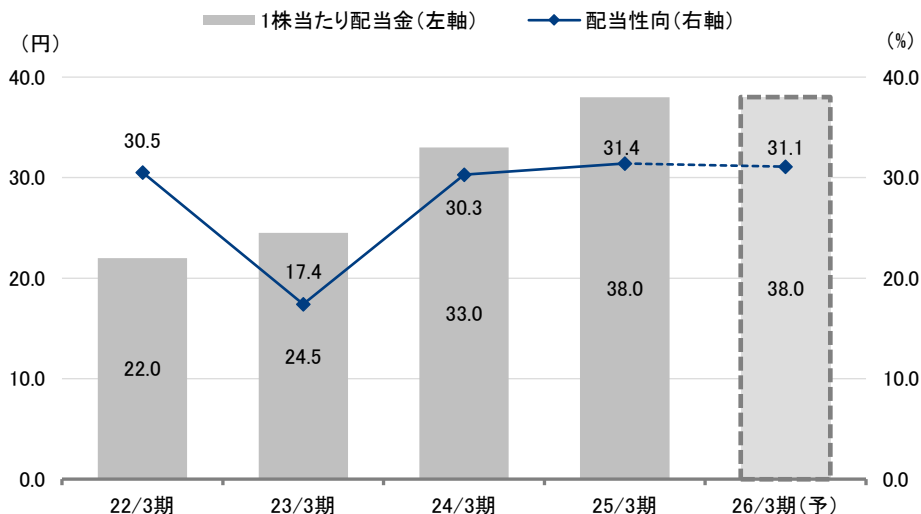
また同社は、自社株買いにも積極的である。現在の「中期経営計画 2027（2025 年 3 月期から 2027 年 3 月期）」では約 50 億円の自己株取得を発表しているが、終了した 2025 年 3 月期中に約 30 億円の自己株式を取得した。

加えて意思決定の迅速化と効率的な連結経営体制の確立などを目的に子会社 3 社（サンライズ、丸安産業、コニシ工営）を株式交換により完全子会社化した。（効力発生日は 2024 年 6 月 30 日、交付株式数は 3 社合計で 3,460,356 株）

さらに資産の効率化を目的に、投資有価証券（政策保有株式）の売却を実施、保有する上場株式 10 銘柄を売却し売却益 397 百万円を計上した。今後も状況を見ながら政策保有株式の売却を進める方針だ。

このように、中期経営計画において株主還元の方針及び目標金額を明確に盛り込んだ同社の姿勢は高く評価できる。

1株当たり配当金と配当性向の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp